

より幅広い学修に向けて試行 大規模公開オンライン講座

このほど本学は「大規模公開オンライン講座(MOOCs: Massive Open Online Courses)」を開始しました。MOOCsは、授業をより多くの方にオンラインで提供できるものです。誰でも聴講できることが特徴で、高校生や社会人など幅広い方を視聴対象としています。

本学では「学部・学科を超えた授業コンテンツの活用」を授業運営の方針の一つとして掲げています。本学の各学部・学科ではいずれも医療や保健、その土台となる教養に関する授業を行っており、所属以外の学部・学科の授業にも、学生の皆さんに役立つものがあるとされています。こうした学修ニーズに応えることも、このほどMOOCsを開始した理由の一つです。



講義動画の一例(高野講師)

現時点では「体の仕組みと働き」(高野海哉講師)および「基礎看護援助方法1」(太田雄馬助教)の一部が配信されています。前者では、鼻腔から咽頭、喉頭および気管の構造や、発声器官としての喉頭の機能などを講義しています。後者では、食事の意義、食べるために必要な口腔機能や嚥下機能などを看護師が観察する際の要点などを講義しています。どちらの講義も図表を用いてわかりやすく解説していますので、学生はもちろん、保護者の皆様もぜひ遠隔授業の様子を知る一助として、ご視聴いただければ幸いです。また、配信に関するご要望やご感想がありましたら、左下のQRコードからお寄せ下さい。

11月中旬に 「レベル2」への緩和を 目指します

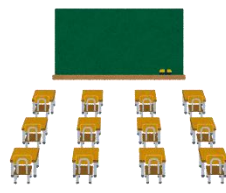
東京都では10月24日をもって「リバウンド防止措置」を終了し、10月25日から11月30日までを「基本的対策徹底期間」と位置づけました。東京都では大学に対して「感染防止と面接授業・遠隔授業の効果的実施等による学修機会の確保の両立に向けて適切に対応」するよう求めています。

この「両立」は、本学でも昨年度からの一貫した方針です。よって遠隔授業も継続しますが、現下の感染まん延状況では対面授業を増やすことも可能と判断します。そこで、11月15日頃を目処に、全キャンパスで対面授業制限レベルを「レベル2」に緩和する方向で準備を進めます。この緩和により、対面授業の日数が最大で週3回になります。また身体接触など密接を伴う演習の機会も増えます。もちろん感染拡大が進んだ場合は緩和ができない可能性もありますが、今の時点では緩和される想定で学修のスケジュール管理をお願いします。

なお「レベル2」への移行対応として、一部の授業では試行的に教室定員や密接を伴う演習の制限を緩和する場合があります。首都圏キャンパスではこの移行対応を行う場合は、PCR検査

「レベル2移行対応」

教室定員や密接を伴う演習の制限を緩和した対面授業の実施



※移行を希望しない学生には遠隔等によって学修機会が提供されます。



受検を必須としています(右図)。なお今回の対応は学生の皆さんからのご意見も参考にしていきます。学生の声①遠隔から対面への変更は、できる限り早く教えて欲しい。翌週から変更のようなことは困る。↓ご意見を踏まえて2週間以上の余裕をもってお知らせしました。学生の声②ハイブリッド型の授業を構築するなら、科目によっては対面と遠隔を学生が選択できてほしい。では、新しい授業形態を期待する。↓部分的ではありますが、今回の「移行対応」では学生の選択が可能ですので、活用ください。引き続き、学生の皆さんからの意見、感想もお待ちしております。

